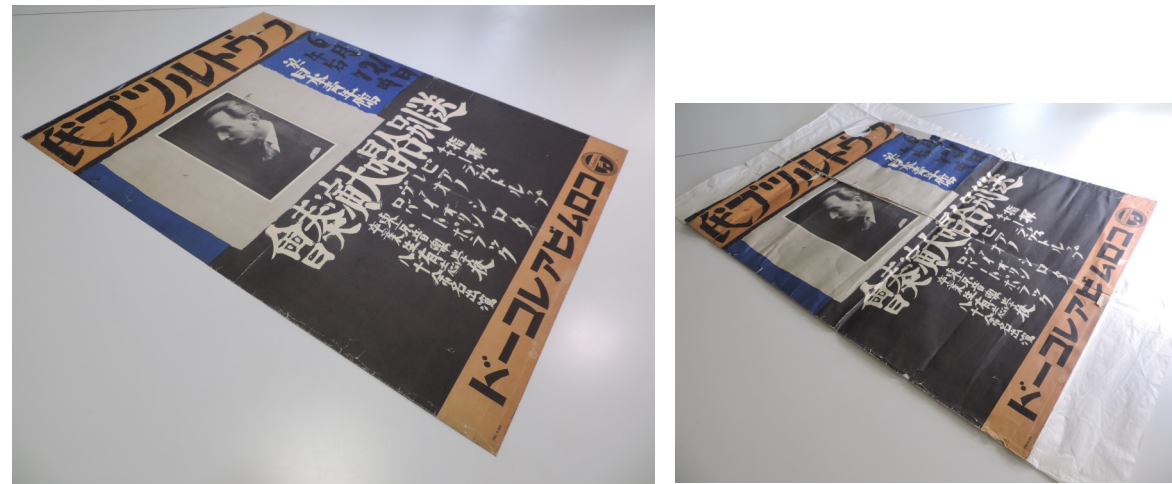


東京藝術大学音楽学部所蔵

ポスター資料1点

『ラウトルupp氏送別合唱大演奏会』及び
書籍資料2点

『自伝若き日の狂詩曲 山田耕筰』への
保存修復処置報告書



2018年9月10日

Paper Documents Conservation Studio, Inc.

有限
会社 紙資料修復工房

〒181-0002 東京都三鷹市牟礼 4-22-16
TEL: 0422-26-5006 FAX: 0422-26-5007



資料名：『ラウトルップ氏送別合唱大演奏会』
資料寸法：縦635×横460mm

裏打ちとして包装紙が使用されている。寸法：縦800×横545mm



裏打ち周辺に使用された糊が濃いためか、周辺に従って波うちが大きく生じている。
下写真：折りたたまれた皺も随所があり、隠れている部分は紫外線劣化が生じていないためか退色せずに鮮やかな色が残ってる。



資料は印刷されたポスターと裏打ちとして使用された包装紙である。
2点とも四つ折りにされた形跡があり、裂け目と深い折れ筋が生じている。ポスターには大きな裂け、欠損が見られ、包装紙にはセロファンテープの貼付が見られる。



四つ折りの折れ筋は深く、表面の印刷部分が捲れ上がるような裂けも随所に生じている。



大きな裂け目が生じた後に、歪な破断面のまま裏打ちがなされている。



波うちと共に、周辺の摩耗や欠損、細かな裂けや折れが周囲すべてに見られる。

表面からのクラフトテープによる貼付補修も見受けられる。



資料名：『自伝若き日の狂詩曲 山田耕筰』2点
資料寸法：縦193×横138×厚み28mm

2点とも、冊子カバーとなる部分のみ処置を依頼されたため、冊子はドライクリーニングのみを施すこととする。

2点の冊子カバー共に和紙を模した用紙にタイトル箔が押されている。周辺の劣化と共に、背部分の破断が顕著にみられる。



もう一点の冊子カバーは比較的欠損が少ないが、やはり大きな破断や摩耗、紫外線による退色が見られる。



冊子カバーの損傷が大きい資料は、作者自身のサインが見返しに記載されており、その部分には、カバーの背部分が挟み込まれている。



左写真：大きな裂けと欠損部分



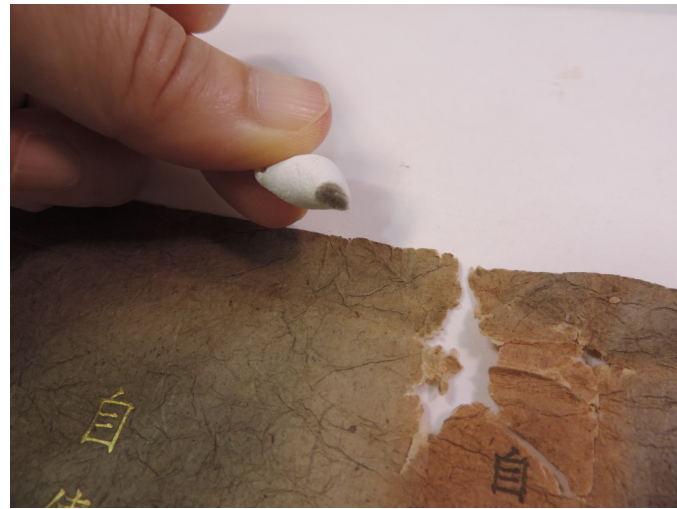
表表紙側と背表紙側が分断している。周辺の汚れと共に、紫外線による退色が見られる。



カバーの小口周辺は複雑に折り返された形跡が見られる。

下写真：小口三方には塵埃の堆積が見られる。



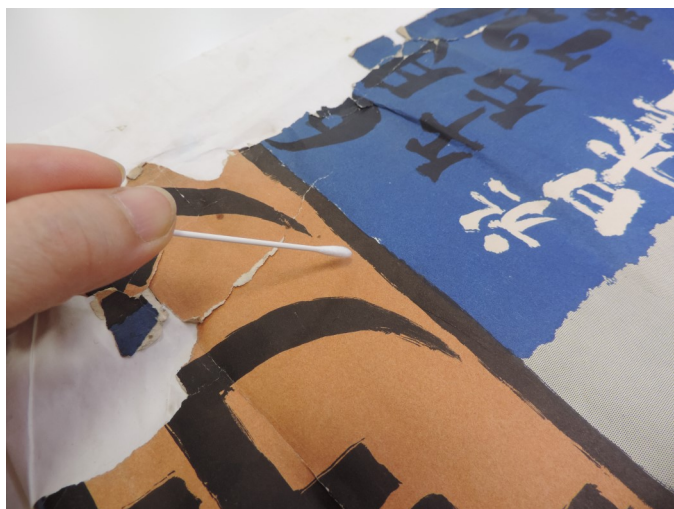


ドライクリーニング：処置の際に水分を使用するため、事前に資料表裏面の塵埃の除去をサクシオンテーブル、ケミカルスポンジ、練り消しゴムを使用し除去する。

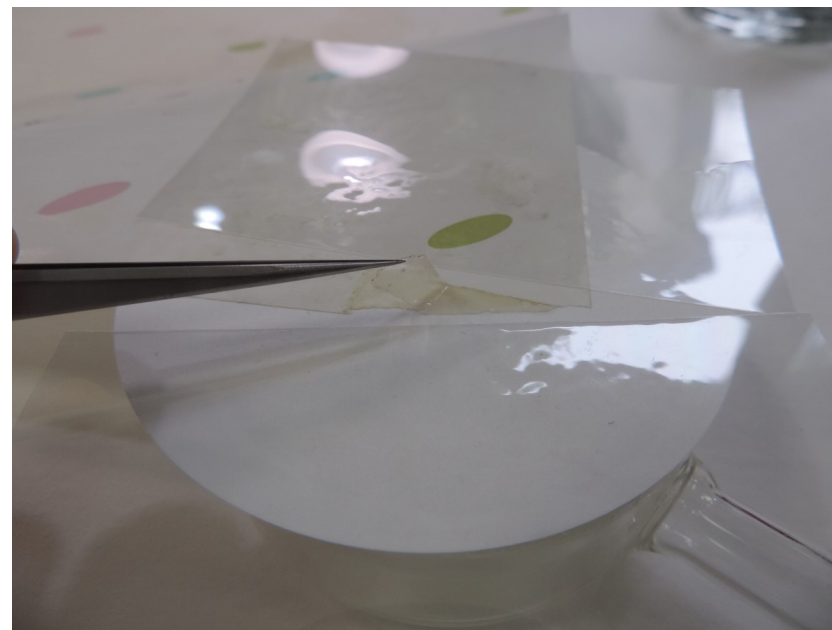


過去の裏打ち紙の除去：ポスター資料の裏打ちに使用されていた包装紙の糊を超音波ミストを加温し与え軟化させ、除去を進める。

冊子資料の喉元の塵埃も刷毛で除去を行う。

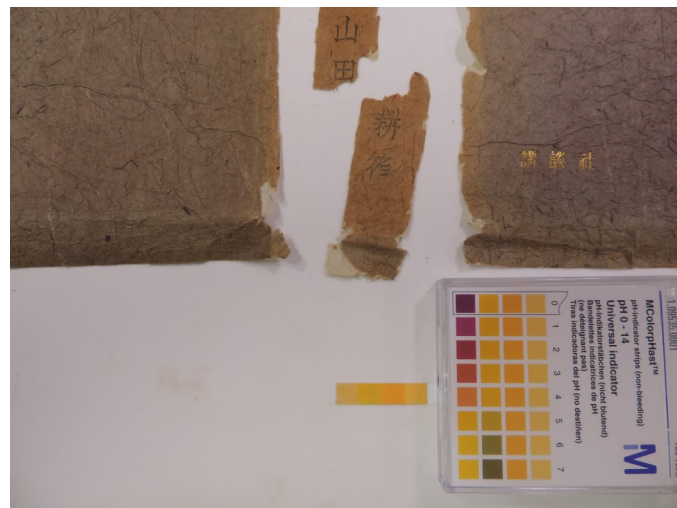


スポットテスト：処置に使用する水分、脱酸性化処置溶液としてのアルカリ、セロファンテープに使用する溶剤（無水エタノール及び酢酸エチル）に資料の紙質・記載材料が可変が生じないか事前に確認をする。



セロファンテープの除去

下写真のように包装紙には随所にセロファンテープが貼付されていたため、スポットサクシオンテーブルにより下方から吸引しながら、無水エタノールにて粘着層を軟化させながら吸引除去を進める。



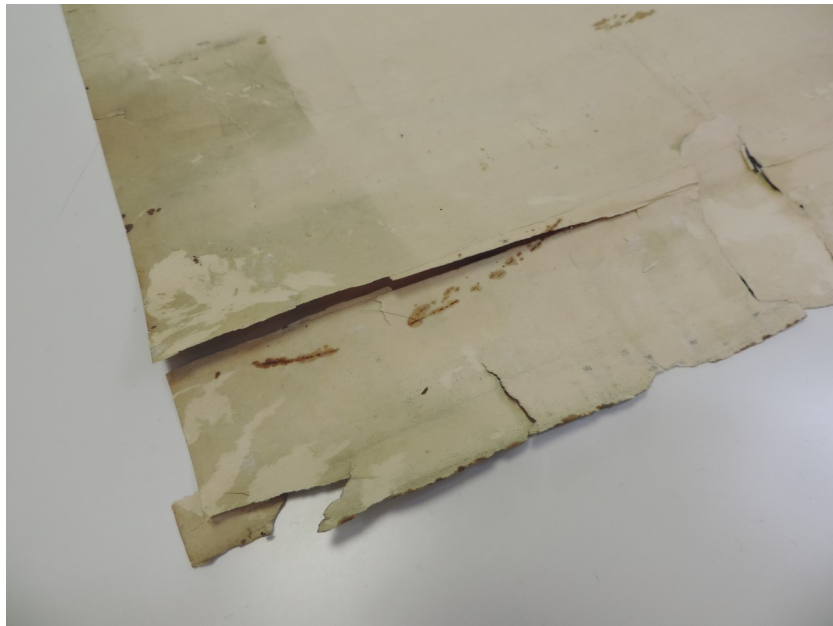
処置前のpH確認：紙の劣化を測定する非破壊の方法の一つとして、紙中の水素イオン濃度の測定を行う。処置前のpHはいずれもpH4.0～4.5を示した。



脱酸性化処置とフラットニング

炭酸水素カルシウム水溶液飽和溶液を純水で5倍～3倍に希釈した溶液を濃度の低いものから順に繰り返し資料裏面に与え、ポスター資料、包装紙の折れ皺を徐々に軽減させていく。溶液の適用と、濾紙に挟み乾燥させることを繰り返す毎に、徐々にフラットニングと脱酸性化処置を進めていく。

その後、濾紙に挟み、軽い重しを置き長期間の乾燥をさせる。



補修

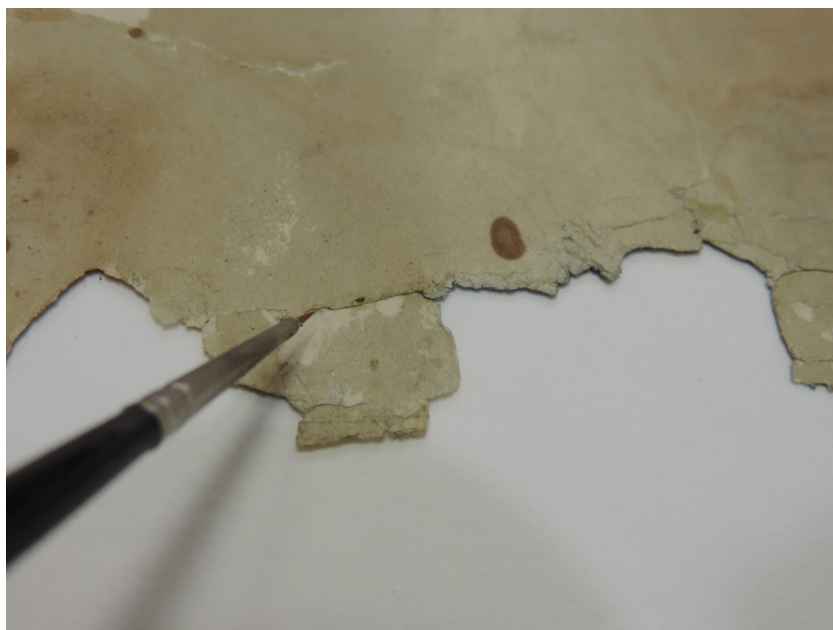
包装紙の総裏打ちを除去すると左写真のような定着した汚損、摩耗の痕跡が現れた。

フラットニングにより、畳み皺や裂け目を整えた後、裂け目の補修を生麩糊と、アクリル絵の具で資料同色に染色した極薄い典具帖紙を1mm弱幅に仕立てた用紙にて行っていく。

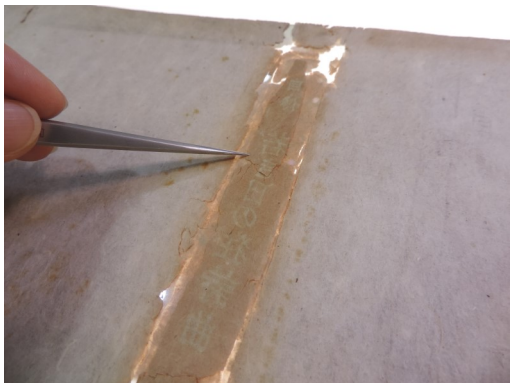


ポスター資料にも同様に資料同色、同厚となるよう、欠損部分の補修を行う。

下写真：ポスター資料裏面。
ポスター資料は表面の色が同色に整うように補修を進めていく。



冊子資料も同様に破断部分の補修を行っていく。



左写真：冊子資料処置後

下写真：処置前



欠損部分には同様に染色した極薄い典具帖紙を積層させ、紫外線退色をした資料同色の雰囲気で、資料同厚となるよう、補修用紙を整え、象嵌するように補修を進める。

冊子カバー資料は欠損部分補填後、冊子の開閉のための強度を持たせるため、極薄い典具帖紙にて総裏打ちを行った。



左写真：冊子資料処置後

下写真：処置前





左写真：冊子資料処置後

下写真：処置前



左写真：ポスター資料処置後

下写真：処置前



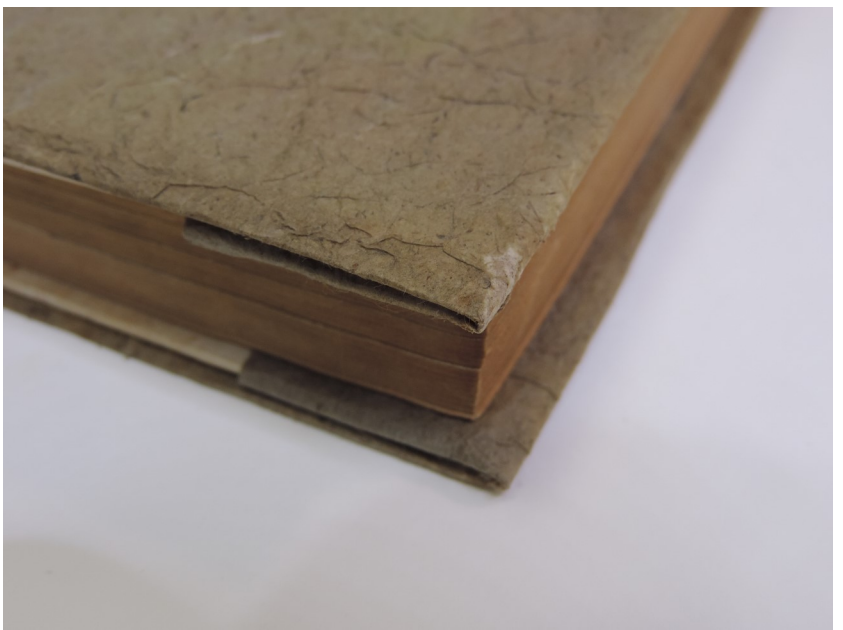
左写真：冊子資料処置後

下写真：処置前



左写真：ポスター資料処置後

下写真：処置前



左写真：冊子資料処置後

下写真：処置前



左写真：ポスター資料処置後

下写真：処置前





左写真：ポスター資料処置後

下写真：処置前



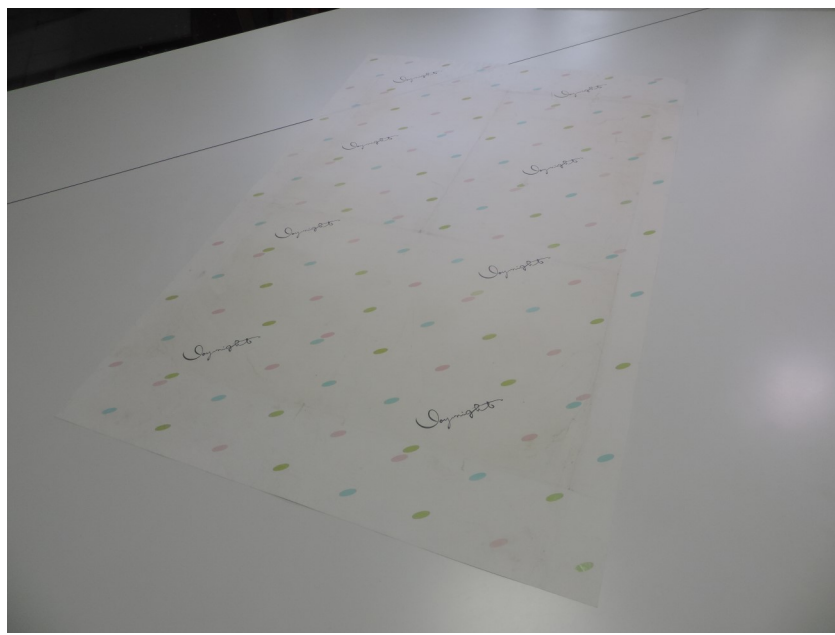
左写真：ポスター資料処置後

下写真：処置前



左写真：ポスター資料処置後

下写真：処置前



左写真：ポスター資料包装紙処置後

下写真：処置前



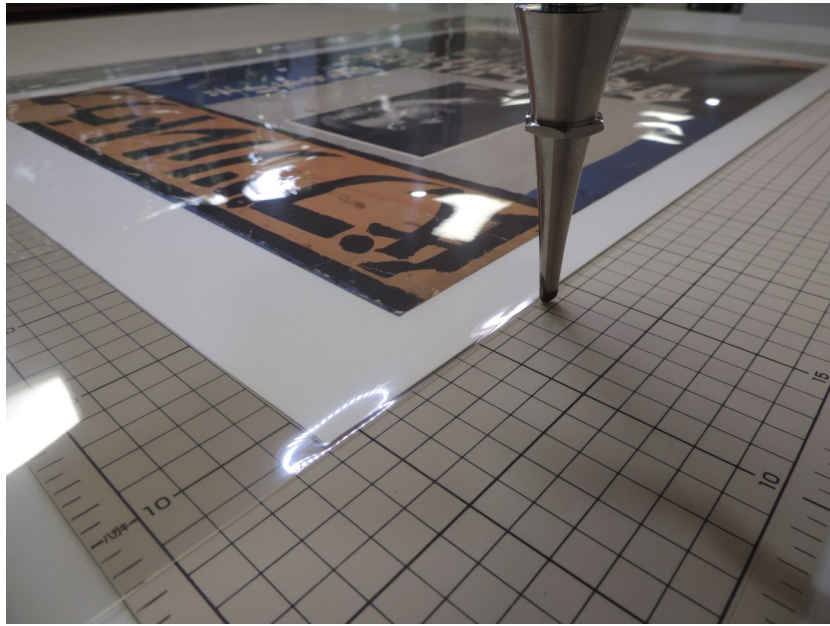
左写真：ポスター資料処置後

下写真：処置前



処置後の pH は、水性脱酸性化処置のみで、pH 7.0～7.5 を示すように処置を完了させた。
酸性域に長期間とどまり保存されていたことと、色材が使用されていることから、中和程度の処置にとどめ、処置を完了とした。





**ポリエステルフィルムエンキャプ
シュレーション:**

処置後所蔵者所有の既存の額に収められるため、ポスター資料と包装紙をアーカイブ保存用の中性紙に挟み、ポリエステルフィルムエンキャプシュレーションをし、同梱させた。

保護用紙: 特種東海製紙製:
プロテクトH及びピュアガード

ポリエステルフィルム: 東レ製、
ルミラーT: 7.5 μ



フィルムは超音波で長辺1辺のみをシーリングしてあるのみなので、資料を出し入れすることができ、また酸素や額装の素材からも隔離され、物理的劣化の保護となる。

保存容器の作成:

冊子資料のカバー部分も水性脱酸性化処置のみで処置を完了させ、処置後のpHはpH7.5を示した。未処置の酸性紙冊子とpHの隔たりが著しく大きくなるように留意した。全処置後、中性紙ボードを使用し保存容器を一冊ごとに作成した。使用ボードは特種東海製紙製: アーカイバボード及びE段。

